

【市民公益活動の「担い手」対策】

今年(令和2年度)は、「市民公益活動支援指針」の改定の年で、その基礎資料とするために2つの報告書(※1)がいただきました。

それを読むと、長年の課題であった「担い手」の高齢化と「担い手」不足がより一層深刻な状況になっていることが分かります。

また、新型コロナウイルスの感染拡大は、活動に致命的な打撃を与えており、継続が危ぶまれています。

この現状は、市民との協働のまちづくりを推進してきた我孫子市にとって、危機的な状況であると言わざるを得ません。

(※1)「令和元年度 市民活動支援に関するアンケート集計結果報告書」と「令和元年度 ボランティア・市民活動に関する意識調査報告書」

(1)「担い手」の実態についての市の見解

これまでも活動団体の会員の高齢化が課題となっていましたが、今回の調査で、高齢化がより一層進んでいる現状が浮き彫りになりました。

アンケートに協力していただいた団体の78%近くが、会員の主な年齢層が65歳以上の団体であること。70～74歳の団体の比率が全体の36%と一番高く、同種の団体の増加傾向が顕著であるという大変ショッキングな実態が判明しました。

また、会員の増減についての調査では、減少した人数が増加した人数の約5倍という結果がでました。我孫子市の市民公益活動は、今後、どうなってしまうのでしょうか？

先ず、今回の調査で明らかになった「担い手」の実態について、市としての見解をお聞かせください。

(2)市民公益活動の「担い手」対策

ア. これまでの「担い手」対策の検証

市民公益活動の調査はこれまで数回行われてきましたが、そのたびに、困っていることは「人」に関する課題です。

今回の調査でも、活動する上で困っていることのベスト3は、「会員の高齢化」、「会員の減少」、「リーダーや後継者の引き受け手がいない」ことで、依然として「担い手」の問題が解決されずに、現在でも最も大きな課題になっていることが分かりました。

市では、次期「市民公益活動支援指針」の策定にあたり、現在の指針の検証を行ったと聞いていますが、担い手を増やすための取組みについて検証結果をお聞かせください。

イ. 「ボランティア・市民活動に関する意識調査」について

この調査は、社会課題が多様化していく中、行政だけで対応することが難しい課題が増えており、ボランティアや市民活動団体への期待が大きくなっていますが、その一方で、活動にかかわる人の高齢化が進み新たな担い手の確保が喫緊の課題となっているとの認識のもとで、住民基本台帳から無作為抽出した 3,000 人の市民を対象に行われました。

調査の目的は、ボランティアや市民活動の認知度の把握、活動への参加の有無、どうすれば参加する気になるかなどの現状把握、そして、今後の支援施策の検討や支援の方向性を決定する基礎資料とすることであります。

報告書では最後に、1. ボランティア・市民活動への関心、認知について 2. 参加について 3. 今後の支援策、担い手対策への考察について、それぞれ総括がなされています。

この意識調査を通して、市として、どんな“きづき”があったのか？ どんな課題を認識したのか？ 課題を解決するために、今後、どんな支援策、担い手対策をお考えなのか、お聞かせください。(1, 2, 3について)

(3)with コロナ時代の新たな市民活動支援策

コロナ禍での活動の自粛や活動場所の使用禁止により、しばらくの間、市民活動はほとんど休止となりました。

公共施設の使用が再開された現在でも、感染が拡大するなかで活動を躊躇している団体も少なくありません。

民間企業では、テレワークが急速に普及し、緊急事態宣言解除後も仕事の7割をテレワークで行うよう政府は要請しています。

コロナ禍でも何とか社会経済活動を続けようと、ICTの活用が進んでいます。市民活動を継続するためにも、また、これからの新しい市民活動の形を創っていくためにも、ICTの活用が必要だと考えます。

先日、市民活動ステーションが、このまま活動の休止が続けば、市民活動は終わってしまうのではないかとの危機感をもって、コロナ禍で中止となった事業の予算を活用して Zoom 会議の使い方講座を実施してくださいました。(※1)

以前、我孫子市では、市民活動支援としてパソコン講座を開催し、多くの市民が参加し、市民活動の活性化に大きな成果をあげて、市民からも先見性のある優れた施策だと評価されました。

with コロナの時代に、何とか市民活動を持続させるため、また、若

い世代が市民活動に参加しやすくする「担い手」対策として、Zoom などの web 会議の活用は有効であると考えます。

将来を見据えた市民活動支援策として、Zoom 会議などの使い方講座の開催を提案させていただきます。

(※1) 市民が講師となり講師料は1講座5千円でした。